和良の郷だより

梅花号

和良おこし協議会発行

地域づくり楽習会（がくしゅうかい） 開催

卒論から考える今後の可能性

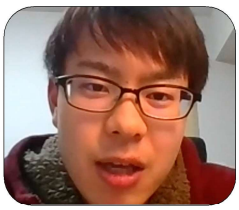
1月17日（日曜日）にオンラインと和良おこし協議会の施設「わらおこし」をサテライト会場に北海道大学林ゼミの卒業生6名による卒業論文の発表会を行いました。

（サテライト会場の様子）

今回で5回目を迎えた「楽習会」は地域づくりを楽しく学習する会として、毎回地域づくりに関しての大学生の研究発表を聞き、今後の和良町での地域づくりを改めて考える機会となっています。北海道大学の林先生は以前は岐阜大学に居られて、和良で地域実習や卒論発表会を開催していただいておりましたが、2年前に北海道大学へ移られました。移られてからも引き続き和良おこし協議会の地域づくりへのご指導いただいております。昨年度は和良に来ていただき、発表会を開催することができましたが、今年はコロナ禍により主にオンラインでの開催となりました。

当日の発表者は6名で、前半と後半に分けて開催。開始の午後1時半から終了の午後5時を少し回ったところまでの長時間となりましたが、興味深い内容に加えて、発表も事前に十分に整理されており、有意義な時間となりました。最近はオンライン上でのやり取りやイベントも多く、事務局も操作に慣れてきたため、特に戸惑う事もなく開催できるようになり、オンラインがコロナ禍において有効な手段となってきました。

以下、発表内容に関して少し触れさせていただきます。詳細に関してはこちらでは多くは記載しませんが、卒業論文は和良おこし協議会にいただいておりますので、興味のある方は、お越しいただけたらご覧いただくことも出来ます。



西本 翔貴さん

「北海道上士幌町における移住支援組織の役割と存在意義－担当者の支援行動の背景に着目して－」

移住者が移住を決める際に支援組織の存在が決め手になる場合もあり、移住候補地が類似した環境を持つ場合には、移住支援組織の対応や担当者の人柄が移住先選定に大きな影響を与えている。この研究では北海道上士幌町のNPO法人上士幌コンシェルジュ、株式会社生涯活躍のまちかみしほろを対象に彼らの役割、連携について調査した。結果、NPO法人は移住前や移住直後の支援、株式会社は移住後の継続的は支援を担当しており、両組織間では情報交換や人の紹介といった連携が行われていることを明らかにした。

◆◇◇◇◇◆

多々良 啓さん

「移住交流の促進に果たすUターン者の役割－北海道浦河町を事例に－」

Uターン者とは地方から都市部へ移住した人が再び故郷に戻ったり、都市から地方へ移住する人々のことである。

本研究では北海道浦河町の移住交流に関わっている5つの組織・団体に在籍しているUターン者によるサポートの連鎖について調査を行った。結果、Uターン者が人脈紹介、住宅紹介などで他のUターン者を支援していることがわかった。

今後の課題として、それらの支援が個人的なものであり、制度としては存在していないため、今後は縮小、消滅する可能性があるということがあげられる。

◆◇◇◇◇◆

原田 綾純さん

「空き家・空き店舗の活用に果たす仲介者の役割－「ナゴノダナバンク」を事例に－」

全国的に増加が予測される空き家問題に関する研究である。先行研究では空き家解決策はそれぞれの地域で地域独自の空き家バンク活動が展開されており、土着の地域ネットワークの仲介役としてのまちづくり事業者の存在が重要だとされている。それを踏まえた上で、愛知県名古屋市西区那古野町にある円頓寺商店街で活動している地域再生の立役者である仲介団体「ナゴノダナバンク」の具体的活動内容について聞き取り調査、文献調査を行った。その結果、「ナゴノダナバンク」が成功している要因として地域に親しまれている団体であること、第三者的な視点をもった専門家がいること、出店希望者の丁寧な選定、出店前後の所有者、事業者、地域への三方フォローであることが明らかとなった。

◆◇◇◇◇◆

吉田 智樹さん

「農村地域の宿泊施設にみる長期経営を可能とする要因-北海道豊富町「民宿あしたの城」を対象に-」

近年の日本では、旅館の数が急激に減少している一方、ホテルや簡易宿所は増加している。1977年の開業から今日まで40年以上の長期にわたって経営している北海道豊富町「民宿あしたの城」を研究することで、現在のゲストハウス「ブーム」が落ち着き、施設数が飽和した後の競争の中でも淘汰されずに長期的に経営していく手掛かりになるのでないかと調査を進めた。

調査の結果、「頻繁に行う情報発信」、「地域外の同業者との連携」、「地域の特産品を活かした名物料理」、「地域住民との良好な関係」、「宿主と女将が持つパーソナリティの絶妙なバランス」などが長期経営の要因であることが明らかになった。

◆◇◇◇◆

小野 安昭さん

「中小酒造業者の付加価値戦略と効果-田中酒造と道内地域との提携関係を事例に-」

日本の清酒業界は清酒の移出数量減少、清酒業者の廃業がみられている。北海道小樽にある田中酒造株式会社は地域に酒造業者が存在しない酒米生産者と提携を結び、地酒を生産している。その田中酒造株式会社を研究対象にして、提携関係が酒造業者や酒米生産者を含めた道内地域においてどのような効果をもたらしているのかを把握し、酒造業者が構築する提携関係の意義を確認した。提携関係の効果として、酒造業者、酒米生産者双方が安定した収入を得ることができる、新たな特産品を販売することができるなどがあるが、一方、課題としては酒造業者がPR活動、販売方法に関与することができない、提携先の担当者が変わる、などがあげられる。

◆◇◇◇◆

坂本 雄太さん

「農業者と非農業者の協働による地域づくり活動を支えるリーダー・フォロワーの関係性に関する研究-北海道南幌町「農猿」を対象として-」

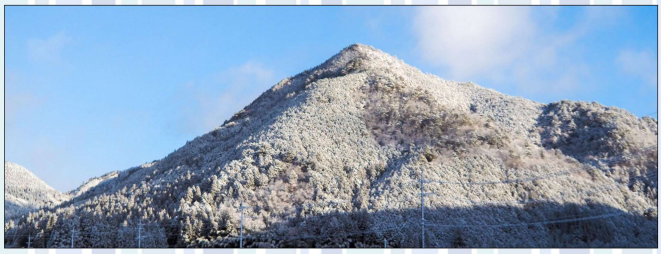
近年、行政による地域づくり活動を支援する体制が確立されつつあり、官民協働による地域づくり活動が進められている。今回、調査対象を北海道南幌町で活動する地域おこし団体「農猿」とし、彼らが行っている地域おこし・地域づくり活動のリーダーシップを研究した。「農猿」は2016年に結成され、現在16名のメンバーが野外イベント「野祭」の開催、物産展や各種イベントへの出店、米粉ドーナッツなどの商品開発を行っている。インタビューの結果、彼らの強みは年功序列ではなくフラットな関係、何でも自由にトライできる環境であることがわかった。また、中心メンバーは他の誰よりも行動し、サポートに回るというリーダーシップを発揮している。その背景としてメンバー同士の良好な関係性、活動参加によるメリットの存在があることが明らかとなった。

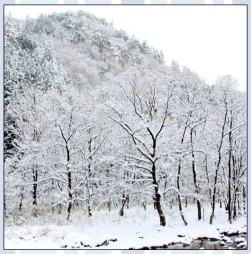
◆◇◇◇◆

空き家対策、移住支援などの研究は、和良や和良おこし協議会における地域づくり活動の参考となる事例も多く、サテライト会場では活発な意見交換がなされていました。すべての研究の中に含まれていたものは、地域づくりに携わるメンバーや中心的な人物が重要な役割を成しているということでした。そして、多くの例で後継者の不在が課題としてあげられていました。

わら冬景色

今年は積雪もあり、雪景色を楽しむことができます。ここではそんな和良の冬景色を切り取った写真を紹介します。





イベント掲示板

キャプテンジョージと行くばんどり探検隊

日時：2月11日（火）14時30分

集合場所：わらおこし

申込先：　長良川おんぱく

郡上市市民協働センターサブセンター相談会

とき：2月16日（火）10時～15時

ところ：わらおこし（和良町下洞554）

相談員：上村英二センター長

和良町の人口

令和３年1月１日現在

人口	男性	女性	世帯数
1,662人（±0）	804人（-1）	858人（+1）	703世帯（+2）